

「A I 戦略 2019」の概要と取組状況

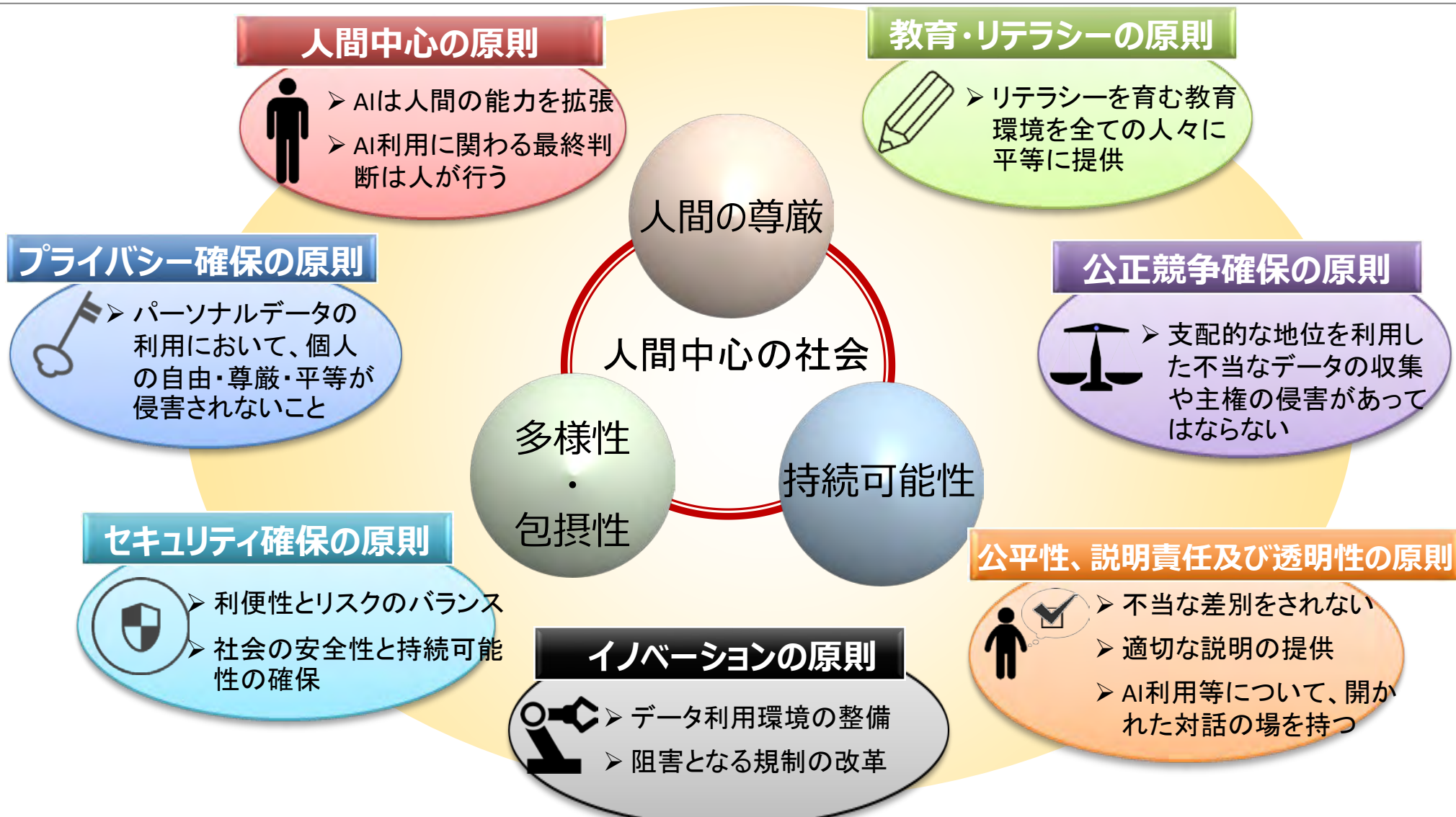
令和元年 1 1 月

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）



【人間中心のAI社会原則】

- 世界でAIの倫理的側面に関する議論が進展
- AIに関する人々の不安を払拭し、積極的な社会実装を推進するため、我が国としての原則を3月に策定
- 今後、AI社会原則に関する多国間の枠組みを構築



A I 戦略【基本的考え方】

- 「**人間尊重**」、「**多様性**」、「**持続可能**」の3つの理念を掲げ、Society 5.0を実現し、SDGsに貢献
- 3つの理念を実装する、**4つの戦略目標**（人材、産業競争力、技術体系、国際）を設定
- 目標の達成に向けて、「**未来への基盤作り**」、「**産業・社会の基盤作り**」、「**倫理**」に関する取組を特定

戦略目標Ⅰ：**人材**

人口比において最もAI時代に対応した人材を育成・吸引する国となり、持続的に実現する仕組みを構築

戦略目標Ⅱ：**産業競争力**

実世界産業においてAI化を促進し、世界のトップランナーの地位を確保

理念（実現する社会）

- 人間の尊厳の尊重（Dignity）
- 多様な人々が多様な幸せを追求（Diversity & Inclusion）
- 持続可能（Sustainability）

戦略目標Ⅲ：**技術体系**

理念を実現するための一連の技術体系を確立し、運用するための仕組みを実現

戦略目標Ⅳ：**国際**

国際的AI研究・教育・社会基盤ネットワークの構築

具体目標・取組

未来への基盤作り

教育改革

研究開発

産業・社会の基盤作り

社会実装

データ
関連基盤

デジタル・ガバメント
中小・新興企業支援

倫理

AI社会原則

AI戦略【主な具体目標（課題）と取組】

戦略目標の達成に向けて、「**未来への基盤作り**」、「**産業・社会の基盤作り**」、「**倫理**」の各分野（教育改革、研究開発、社会実装、データ、デジタル・ガバメント、中小・新興企業支援、社会原則）における各**具体目標**と**取組**を特定

		主な具体目標（課題）	主な取組
未来への基盤作り	教育改革	デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍	- リテラシー：外部人材の積極登用、生徒一人に端末一台 - 応用基礎：AI×専門分野のダブルメジャーの促進 - エキスパート：若手の海外挑戦拡充、AI実践スクール制度 優れた教育プログラムを政府が認定する制度の構築
	研究開発	世界の英知を結集する研究推進体制 日本がリーダーシップを取れるAI技術 - AI研究開発の日本型モデルの構築	多様な研究者による創発研究の支援拡充 - 世界をリードできる次世代AI基盤技術の確立 AI中核センター改革、AI研究開発ネットワーク構築
産業・社会の基盤作り	社会実装	- 実世界産業のサービス構造への転換 インクルージョン・テクノロジーの確立 - 標準化を推進し、開発成果の社会実装を促すシステム・アーキテクチャを先導	- 健康・医療・介護：世界の医療AIハブ、データ基盤整備 - 農業：スマート農業技術の現場導入、成長産業化 - 国土強靱化：インフラデータプラットフォームの構築 - 交通・物流：AIターミナルの実現、物流関連データ基盤構築 - 地方創生：スマートシティ共通アーキテクチャの構築
	データ関連基盤	国際連携による次世代AIデータ関連インフラの構築	- データ基盤：データ基盤の本格稼働と連携 - トラスト：トラストデータ流通基盤の開発
	デジタル・ガバメント 中小・新興企業支援	- 公共サービス・自治体行政のコスト削減、業務効率化 - AIを活用した中小企業の生産性向上	自治体が安心して利用できるAIサービスの標準化 - 中小企業支援方策の検討
倫理	AI社会原則	社会原則普及と国際連携体制構築	「人間中心のAI社会原則」の定着化、多国間枠組構築

教育改革に向けた主な取り組み【年代別】

ITパスポート/応用基礎

リテラシー

小中学校

基礎的学力・情報活用
【100万人卒/年】

高校

文理問わず数理・データ関連教育
【100万人卒/年】

大学

AI・数理・データサイエンス教育/エキスパート教育
【50万人卒/年】

社会人

リカレント教育/待遇
【多くの社会人に教育機会を提供】

大学入試

応用基礎を重視する入試に
採用する大学への重点支援

応用基礎

大学・高専生が自らの専門分野へのDS・
AIの応用力を習得（25万人規模/年）

- AI×専門のダブルメジャーを可能とする環境
- 専門教育レベルのコース認定の導入

エキスパート

年間2000人、トップ100人育成

- PBL中心のAI実践スクール制度
- 若手の海外挑戦機会の拡充

外国人材

- 環境整備（サバティカル、報酬等）、海外大学・研究機関等との連携強化

地域課題等を解決できるAI人材

- 地域の産業界、大学、高専、高校等による地域の課題発見・解決の実践力を習得する環境整備

大学入試

「情報Ⅰ」を入試に採用する
大学の抜本的拡大

数理・データサイエンス・AI教育認定制度

- 素養・スキル（出口）に応じた人材の質を担保する仕組みを構築
- 単位が認められる大学等の優れた教育プログラムを認定、就職等へ活用

小中高校

理数分野の興味関心を
向上

- STEAM教育のモデルプラン提示と全国展開
- 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善

高校における教育の
充実

- AIの基礎となる実習授業
- 確率・統計・線形代数等の基盤を修得する教材

教育環境（学校の指導体制等）の整備

- 多様なICT人材の登用（高校は1校に1人以上、小中校は4校に1人以上）
- 生徒一人一人が端末を持つ環境整備
- 遠隔教育を早期に利活用

大学・高専

文理問わず、A Iリテラシー教育を50万
人に展開

- 標準カリキュラム・教材の開発と展開
- 初級レベルのコース認定の導入（MOOCの活用等含）

社会人リカレント

基本的情報知識とAI実践的活
用スキルを習得する機会の提供

- 職業訓練の推進
- スキル習得プログラムの拡充（就職等への活用促進）

資格制度の活用

ITパスポート試験の「情報Ⅰ」等の実施を踏まえた出題の見直し、高校等における活用促進

「AI戦略2019」に基づく“人材育成”に関する主な取組状況

＜内閣府が、関係省庁と連携して取り組んでいる事項＞

- 「**数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度**」
の構築に向けた検討 （文部科学省、経済産業省と連携）
 - ・ 第1回会合：10月29日に開催
 - ・ 本年度内に制度検討 ⇒ 来年度から認定制度の開始を予定

- 「**AIステアリングコミッティー**」の設置 （総務省、文部科学省、経済産業省と連携）
 - ・ 第1回会合：10月21日に開催

- ⇒ 「**AI研究開発ネットワーク**」構築
 - ・ 本年内運用開始を目標